



お役所の怪談



加藤 美浩

お役所の怪談

地方公務員法

(昭和二十五年十二月十三日法律第二百六十一号)

第三十四条

- 一 職員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。
その職を退いた後も、また、同様とする。

加藤 美浩

目次

ふれあい健康センターの運動器具の異常について	1
河東市健康推進部健康施設課 内村 健司	
庁舎改築に伴う移動書庫の撤去について	13
山平市市民部戸籍管理課 鈴木 さやか	
街区公園における不審火について	27
みちみらい市都市整備部公園施設課 丘 みすず	
文化プラザコンサートホールのリニューアルについて	45
北中市文化部施設課 小野田 舞人	
駅前再開発事業での事故の発生について	59
明光市まちづくり推進部事業課 古屋 勇	
市長会議室壁面地図の改修について	71
城西市政策推進部秘書課 多田 雄一郎	
二階女子便所の異常について	81
幸来市総務部庁舎管理課 鹿島 麗	
お役所の階段(あとがき)	93

部 長		ふれあい健康センターの運動器具 の異常について		
令和×年×月×日 起案 令和×年×月×日 決裁		河東市健康推進部 健康施設課 内村 健司		
所 管	部 長	課 長	係 長	担 当
合 議				

ふれあい健康センターのランニングマシン(1台のみ)については、深夜に稼働するという怪奇現象が一部の職員の間で言い伝えられていたところ です。

このたび、この経緯等について取りまとめましたので、報告いたします。

なお、本件については、庁内関係者のみへの周知事項とします。

「お先に失礼します」「お疲れ様でした」「お先くい」「お疲れく」...

午後五時三十分、明るい声が響いているのは、河東市役所二階の南側、健康推進部健康施設課である。秋の健康増進月間を除いては、それほど忙しくない職場なので、多くの職員は定時退庁である。

「すまんが、今日はよろしく頼むよ」

課長の中村真が声をかけた相手は、担当職員の内村健司である。

「はい、がくんくばくりくまくす」

内村は三十三歳。今年、社会人枠で採用となった新人である。大学時代はラグビーに熱中し、大学選抜メンバーにも選ばれた。そのおかげで社会人ラグビーの西山電機に入社したのだが、怪我のため成果が出せず、会社に居づらくなり、河東市役所の採用試験を受け合格、希望した健康増進のセクションに配属となった。持ち前の明るい性格とラグビー仕込みのパワーで仕事をこなし、わずか半年で周りの信頼を得ている。順風満帆の公務員人生のスタートだ。

課長によるしく頼むと言われたのは、市の施設であるふれあい健康センターの運動器具点検の立ち合いのことである。年に一度、市民利用が終わった午後九時から午前零時まで、専門業者による器具点検があり、その立ち合いをしなければならぬ。今日がその日なのだが、健康増進課では、慣例で新人や異動してきた若手がこの立ち合いやることになっている。

「内村君、大丈夫？」

コンビニに夕食の弁当を買いに行こうとしていた内村に声をかけたのは、二歳年上の主任、飯塚陽子である。

「大丈夫って？大丈夫ですよ！あのコンビニの特製カツ丼、すごいボリュームなんで、夜中まで持つと思いますっ」

「いやっ、あの、そういうことではなくて・・・」

飯塚は、内村のパワーに押されながらも言葉を続けた。

「ふれあい健康センターのウワサ、知らないんだ」

「ウワサ？」

「いや、いいの、いいの・・・じゃお先に」

飯塚は、マズイことを言ってしまったという雰囲気いっぱい、そそくさと部屋を出て行ってしまった。

「へんなの！」

内村は飯塚の言葉が気になったものの、今は何よりコンビニに行くことが最優先と、走って出かけた。

ふれあい健康センターまでは車で約十五分。内村は特製カツ丼の満足感に浸りながらも、デザートの大福はやめておけばよかったかななどと考えながら車を走らせ、午後七時半近くにセンターに到着した。センターには、まだトレーニングをしている市民が数名いたが、事前から今日は点検のため通常より一時間早く閉館することを周知していたためか、その数名も間もなく帰り支度をはじめたようだった。

「お疲れ様です。点検へのご協力ありがとうございます」

続きは
完成版で
お楽しみ下さい。